

言葉と人権 ⑥

プラスの言葉、マイナスの言葉

◆ 自分の言葉を受け手がどう受け止めるか、その意識をもって発話を行おうとする児童・生徒を育てたいものです。

◆ 言葉には、大きくプラスの言葉とマイナスの言葉があります。

プラスの言葉は、ポジティブで前向きな言葉。受け手は、喜びをもって受け止め、明るく元気になったりやる気になります。称賛や感謝、信頼、共感、応援、激励などの意を表す言葉です。

一方、マイナスの言葉は、ネガティブで後ろ向きな言葉です。受け手は、落ち込んだり、自信や意欲をなくしたりします。否定や疑念のほか、愚痴や不平不満などを表す言葉が相当します。



◆ マイナスの言葉には、言い換えによってプラスに転じるものがあります。

例えば、「頑固者」はマイナスの言葉ですが、「意志が強い」はプラスの言葉です。「しつこい」と「粘り強い」、「小心者」と「慎重な人」、「堅苦しい」と「きちんとしている」なども同様です。言い換えとともに、その人の見方、捉え方も変わります。

◆ 人権尊重の理念を踏まえ、折々に自分自身にプラスの言葉をかけることは、明るくポジティブな人生を送ることにつながります。

◆ マイナスの言葉に関することわざがあります。「寸鉄人を刺す」です。

「寸鉄」とは短い刃物。ここでは、「短い言葉」を指します。

「たとえ短い言葉であっても、人の急所をつく。(致命傷を与える)」という意味です。言葉は、人に勇気や希望を与える反面、取り返しのつかない結果を生むことにつながる、強い負の力がある。そのことを、発達段階に応じて教える必要があります。